

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
5	1	4	土地改良費	282		

I：事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設（用水路、ため池等）を適切に維持管理することで、農業用水の安定供給を図るとともに地域排水機能を維持する。
事業内容	●事業の全体計画 ・土地改良施設（用水路、ため池等）を適切に維持管理する。 ●主な事業内容 ○土地改良（排水）事務 ・電気料金（ポンプ場、転倒堰）850,900円 ・ほ場整備確定測量成果データ化業務委託1,045,000円 ・濃尾用水地区用排水対策協議会負担金2,000円 ・尾張西部排水対策推進協議会負担金10,000円 ○土地改良（排水）施設管理 ・揚水機場保守点検委託（一本杉ポンプ場外4箇所）660,000円 ・土地改良施設維持管理委託（地元要望 草刈・浚渫等）9件3,226,168円 ・ため池草刈り等業務委託29件（58池）5,783,076円 ・ため池水位監視システム観測機器保守点検業務委託297,000円 ・土地改良施設維持工事（地元要望）44件9,647,550円 ・木津用水排水負担金8,466,000円 ・木津用水路污水处理施設維持管理費負担金7,362,000円 ・入鹿用水土地改良区施設維持管理負担金4,961,270円
事業の成果・効果	土地改良施設（用水路、ため池等）の補修工事、除草、浚渫や施設点検などの実施により、農業用水の供給や排水機能が著しく滞る事がなく、管理することができた。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

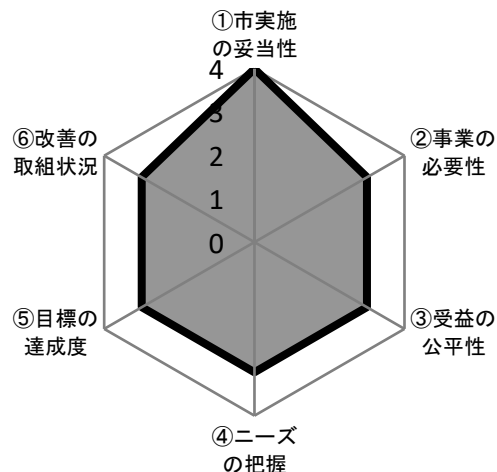
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
土地改良（排水）事務	1,928	178	1,750	91%	3	3	3
土地改良（排水）施設管理	40,679	0	40,679	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	42,607	178	42,429	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		41,978	42,607	44,495
財源内訳	国県支出金	57	129	171
	地方債	0	0	0
	その他	60	49	70
	一般財源	41,861	42,429	44,254
一般財源の割合		100%	100%	99%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	用水路、ため池等の管理は、犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、市が行う。
②事業の必要性	3	農業用排水路やため池は、地域の雨水排水や洪水調整池としての機能も有しており、農業従事者のみならず、市民生活の安心・安全にも寄与する事業であり、優先度は高いと考える。
③受益の公平性	3	農業用排水路やため池は、地域の雨水排水や洪水調整池としての機能も有しており、事業効果は農業従事者のみならず広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	3	農業用水の供給や排水機能が著しく滞ることなく、管理することができた。
⑥改善の取組状況	3	故障すると取水困難や水害の要因となる堰・ゲート等については、農閑期に点検を行い、計画的に補修を行う。 用水路の補修は、地元要望に基づき緊急性など優先度を考慮しながら実施する。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	地元要望箇所の現地調査を行い、緊急度や重要度などから優先順位を判断し、維持・補修等を実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	地元要望箇所については現地調査を行い、緊急度や重要度などから優先順位を判断し、維持・補修等を適宜実施する。 予算規模が大きくなる場合は、修繕計画をたて予算の平準化を図りながら進める。
今後見直しを検討する事項	危険箇所や機能不具合箇所において、迅速かつ効果的で効率的な維持・補修等の実施に努め、事業を継続する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の老朽化	堰・ゲート等については、農閑期に損傷具合や動作確認等の点検を行い不具合を調整し、次年度の取水時期に備える。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	2	1	林業振興費	286

部局名	都市整備部
課 名	土木管理課

I：事業概要

施策事業名	林道管理
事業目的	林道管理者として、通行に支障を及ぼさないよう管理する。
事業内容	●事業の全体計画 - 林道管理者として、林道の通行に支障が無いよう維持補修等を行う。 ●主な事業内容 ○林道管理 - 林道維持補修工事99,000円
事業の成果・効果	道路パトロールや路面補修により、通行に支障が無いよう維持管理することができた。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

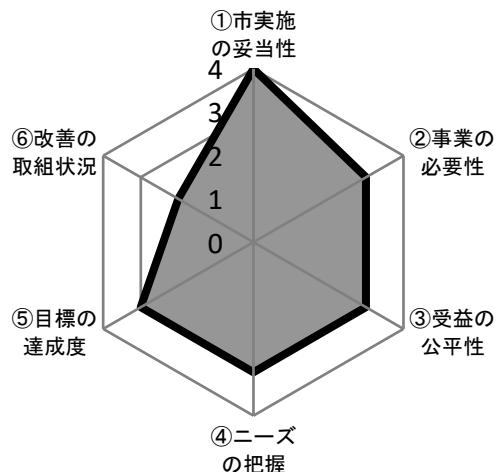
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
林道管理	99	0	99	100%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	99	0	99	100%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		99	99	136
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	99	99	136
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	林道管理規程第5条に定める管理者である市が実施する。
②事業の必要性	3	林道管理者として管理は必須であるが、利用者が限定されるため最低限の事業継続としている。
③受益の公平性	3	林道の利用者は少ないが、公道であるため公共性は高い。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	3	通行に支障が無いような維持管理はできている。
⑥改善の取組状況	2	利用者が少なく、限られた用途利用のため、必要最低限の維持管理としている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	最低限の管理としており、特にない。
令和7年度に見直しを実施している事項	最低限の管理としており、特に予定はない。
今後見直しを検討する事項	最低限の管理としており、特に予定はない。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
利用者が限られているため、補修箇所の発見が遅れる。	定期的な道路パトロールや地元役員と連携し、不具合の早期発見に努める。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	1	1	土木総務費	300		

I：事業概要

施策事業名	土木管理事務
事業目的	道路、水路、公園緑地等の管理者として、施設を常に良好な状態に保ち、利用者に支障を及ぼさないよう管理する。
事業内容	●事業の全体計画 ・道路、水路、公園等の管理者として、施設を常に良好な状態に保ち、利用者に支障を及ぼさないよう管理する。 ●主な事業内容 ○土木管理事務 ・報酬費 土木常設員44名分の報酬 1,364,000円 ・光熱水費 電気料金（街路灯、道路照明灯、観光街路灯等） 20,430,576円 ・役務費 火災保険料（道路管理賠償責任保険料） 963,880円 ・委託料 測量登記委託料（道路内民地処理、道路水路境界確定） 3,674,485円 道路台帳更新委託料（台帳データ等年度更新、背景現況図更新） 8,074,000円 ・公有財産購入費 土地購入費（道路水路等の用地整理） 546,606円 ・ライン大橋管理負担金（日常管理分） 477,376円 ・ライン大橋管理負担金（ライン大橋定期点検） 3,795,000円 犬山市、各務原市で日常管理に要する経費を1/2ずつ負担 ○公開型GISシステム運用 ・公開型GISシステム更新業務委託料 1,441,000円 道路台帳情報更新（検索用地番図含む4レイヤー） ・公開型GISシステムサービス使用料 555,000円 ASP使用料（サーバー保守及び使用料）
事業の成果・効果	道路、水路、公園等の適正な管理により利用者への支障も無く、また占用・承認工事等の各種許認可申請の処理、道路台帳の更新、官民境界確定、道路内民地処理等を適正に実施している。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

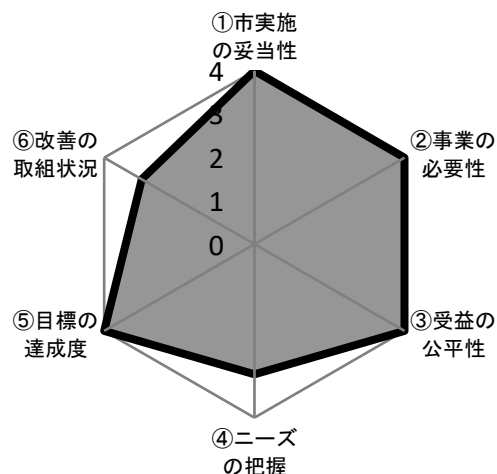
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
土木管理事務	40,630	33,777	6,853	17%	3	4	4
公開型GISシステム運用	1,991	0	1,991	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	42,621	33,777	8,844	21%	3	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		37,073	42,621	49,575
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	34,358	33,777	33,500
	一般財源	2,715	8,844	16,075
一般財源の割合		7%	21%	32%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市道の管理については、道路法第16条により市が実施することとなる。
②事業の必要性	4	道路等の維持管理には用地の適正管理が必要不可欠である。
③受益の公平性	4	行政財産である道路を適正に管理するための測量・境界確定は、市民の財産を保全する役割を有している。
④ニーズの把握	3	道路、水路、公園緑地その他附属設備の改善・修繕について地元（市民）からの要望を把握している。
⑤目標の達成度	4	道路、水路、公園等の占用・承認工事等の各種許認可申請の処理、道路台帳の更新、官民境界確定、道路内民地処理等の管理事務を年間通じて適正に行えている。
⑥改善の取組状況	3	来庁しなくてもよい仕組みの一つとして公開型GISを用いて道路台帳情報をWEB上で公開しており、その情報の充実を図っている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	承認工事により自らの費用で乗入口を車両対応側溝に入れ替える方へのマニュアルを作成し、補助金制度を創設した。
令和7年度に見直しを実施している事項	犬山駅東からくり広場について、これまで以上に利活用されるようPR方法の検討及び今後の在り方をモニタリングも含め検討を進める。
今後見直しを検討する事項	今後も土木管理事務全般事業について、必要性、改善点、コスト面について検討を行なう。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
窓口での許認可事務処理では、国・県・他市町の先進事例でも電子化への対応に関して、コストに比べ事務の簡素化等に繋がらない状況となっている。	最新動向を注視しながら、費用対効果も踏まえて市民等の利便性向上に向け研究していく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書 (P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	2	1	道路維持費	302		

I：事業概要

施策事業名	道路維持修繕
事業目的	ライフラインである道路を安全で快適に利用できるよう適正に維持管理する。
事業内容	●事業の全体計画 ・地元要望に基づき、道路施設の新設・改修・維持補修等工事を行い、施設の適正管理に努める。 ・道路面の穴ぼこ、側溝のふた割れ等危険な箇所は、速やかに補修し、事故防止に努める。 ・舗装や側溝の劣化が激しく広範囲にわたり、全面改修が必要な路線は、計画的に実施する。 ・街路灯の新設、修繕を行うことで夜間の灯りを確保し、安心・安全なまちづくりに寄与する。 ・城下町において路面サインを設置することで、観光客が車道側に広がらないよう注意喚起を促す。 ●主な事業内容 ○道路補修 ・道路維持工事135件30,861,600円 ・舗装維持補修工事33件36,969,570円 ・道路側溝改修工事3件2,960,100円 - 市道羽黒西93号線、市道楽田東66号線、市道木津6号線 ・舗装改修工事（計画的な改修）129,721,900円 - 市道犬山公園小牧線、市道栗栖犬山線外1 - 市道犬山27号線、市道羽黒西117号線外1 ○道路交通安全施設修繕 ・LED道路照明灯借上料（1年分）1,775,520円 - 借上期間（平成30年12月1日～令和10年11月30日） ・街路灯設置工事3件（21基）1,533,180円 ・道路安全施設維持工事30件9,514,868円 ・街路灯維持工事27件3,854,950円 ・本町通り路面サイン設置工事5,482,400円
事業の成果・効果	ライフラインである道路を常時良好な状態に保てるよう、道路施設の補修・改修等を実施し、一般交通に支障を及ぼさないよう管理した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

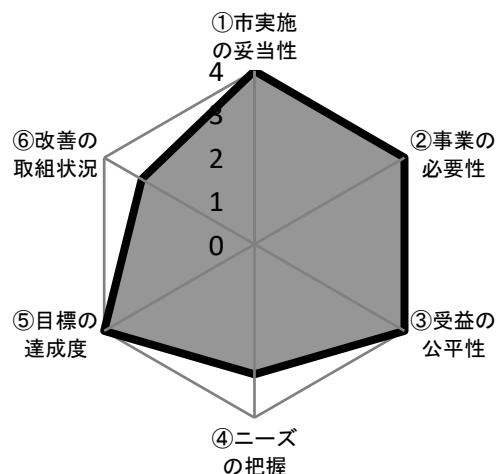
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
道路補修	202,877	132,462	70,415	35%	3	3	3
道路交通安全施設修繕	22,251	2,500	19,751	89%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	225,128	134,962	90,166	40%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		216,571	225,128	253,386
財源内訳	国県支出金	14,126	26,829	24,000
	地方債	12,700	101,000	122,300
	その他	10,173	7,133	3,728
	一般財源	179,572	90,166	103,358
一般財源の割合		83%	40%	41%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路施設を対象としており、不特定多数が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	道路関係の令和5年度要望実施率は約65%で、当初目標値60%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、地元要望箇所の現地調査を行い、緊急度や重要度などから優先順位を判断し、補修・改修を実施する。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	地元要望箇所の現地調査を行い、緊急度や重要度などから優先順位を判断し、補修・改修を実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	施設の劣化進行状況や他事業（水道・下水道・ガス等）との調整等により、既存改修計画（舗装・側溝）の見直しを行う。
今後見直しを検討する事項	今後の維持管理を効率的に行うには、時点毎での施設の適切な現状把握が重要であるため、施設の健全度評価や劣化度予測に必要なデータの整備を行い、効果的な施設計画を策定する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
道路施設の老朽化対策	老朽化による施設の経年劣化が今後更に拡大し、健全な状態の維持に必要な費用の増額が予想される。計画的な維持管理手法による予算の平準化を図るため、改修計画策定の基礎となる施設点検、現状調査等の実施を検討する。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	2	1	道路維持費	302		

I：事業概要

施策事業名	道路施設等管理
事業目的	道路を安全で快適に利用できるよう清掃及び街路樹剪定や除草等による道路施設の維持管理を行う。
事業内容	●事業の全体計画 ・道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯の街路樹剪定や除草など、道路を安全に通行利用できるよう適正に施設管理を行う。 ・交差点や横断歩道付近など、道路利用者の視認性を妨げ事故の要因となりうる街路樹の伐採撤去を行う。 ●主な事業内容 ○道路施設等管理 ・消耗品費（凍結防止剤、保安用品等）1,082,468円 ・道路作業業務委託（市内全域 道路パトロール・作業等）10,582,000円 ・道路雪氷対策委託（市道名古屋犬山線外30）2回 4,111,886円 ・路面清掃作業委託（1・2級市道 道路路肩 年1回）1,595,000円 ・側溝浚渫委託 6件 959,200円 ・測量調査委託（トンネル長寿命化点検業務委託）2,090,000円 ・土のう回収委託（町内等による清掃の土砂等回収処分）12件 2,009,700円 ○道路植樹等管理 ・道路植栽帯管理業務委託（市道名古屋犬山線外35）11,803,000円 ・道路除草委託 15件 32,364,500円 ・街路樹剪定委託 3件 5,280,000円 ・倒木処理・はみ出し枝処理委託 8件 2,445,300円 ○道路植栽帯改修 ・街路樹伐採委託 7件 （市道名古屋犬山線、市道犬山公園小牧線、市道富岡荒井線） 5,177,480円
事業の成果・効果	道路パトロール、路面清掃、除草、街路樹剪定など施設管理業務の実施により、道路を良好な状態に保ち、一般交通に支障を及ぼさないよう管理を行った。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

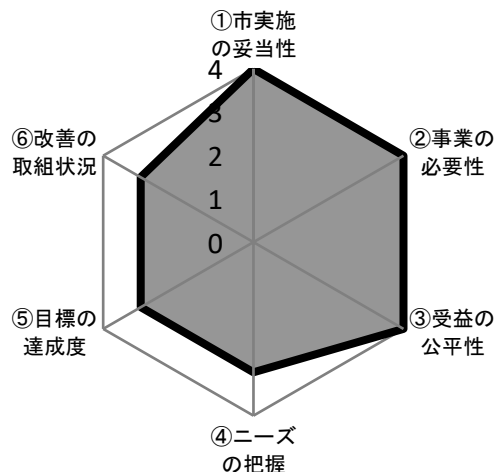
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
道路施設等管理	22,430	0	22,430	100%	3	3	3
道路植樹等管理	52,157	0	52,157	100%	3	3	3
道路植栽帯改修	5,177	0	5,177	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	79,764	0	79,764	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		191,865	79,764	90,334
財源内訳	国県支出金	28,451	0	0
	地方債	20,900	0	9,900
	その他	0	0	0
	一般財源	142,514	79,764	80,434
一般財源の割合		74%	100%	89%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路施設を対象としており、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	3	除草や街路樹剪定については、通行に支障がある箇所を優先的に実施している。夏季は雑草の成長が早く、除草要望が多くなるが、施工体制の確保が困難であり、要望時期に沿えないことがある。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、維持管理コストの検討等を考慮しながら実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	交差点や横断歩道付近など、道路利用者の視認性を妨げ事故の要因となりうる街路樹の計画的な伐採撤去が完了した。
令和7年度に見直しを実施している事項	道路利用者の視認性を妨げ事故の要因となりうる、交差点や横断歩道付近の道路植栽帯からの雑草抑制対策として、張コンクリートの施工と、そこからの乱横断を防止するため防護柵設置を予定している。
今後見直しを検討する事項	交差点や横断歩道付近などの安全対策として、道路植栽帯の張コンクリート、防護柵設置を継続して実施する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
道路の草刈りについては、高齢化等で地域の方々による実施が困難となったことなどにより、要望が増加している。	除草委託や張コンクリート・防草シート等による雑草抑制対策など、現場状況に合った手法をコスト面も踏まえて検討する。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	2	1	道路維持費	302		

I：事業概要

施策事業名	駅前広場維持管理						
事業目的	駅前広場の管理者として、施設を良好な状態に保てるよう清掃や点検、維持補修を行うなど、日常の利用に支障がでないよう適正に維持管理する。						
事業内容	●事業の全体計画 ・清掃業務など日常的な維持管理により、駅利用者等に不快感を与えないよう良好な状態を保つ。 ・清掃業務や定期点検により発見された施設の不具合については、迅速に修繕等を行う。 ・犬山駅東西連絡橋の長寿命化を図るため、施設点検の結果に基づき計画的に改修工事を行う。 ●主な事業内容 ○駅前広場管理 ・光熱水費（電気、水道、下水道）3,547,835円 ・犬山駅前広場維持管理業務委託（清掃、除草、樹木剪定、花壇管理）3,630,000円 ・犬山駅昇降機保守点検委託（エスカレーター2基、エレベーター2基）2,178,000円 ・犬山駅前広場モニメント等保守点検業務委託（からくり時計）462,000円 ・犬山駅前広場公衆便所清掃委託1,320,000円 ・楽田駅東広場公衆便所清掃委託682,000円 ・犬山駅東西連絡橋清掃管理業務委託1,584,000円 ・犬山駅東西連絡橋消防設備及び電気保守点検業務委託159,500円 ・駅前広場維持工事15件 898,920円 ○犬山駅東西連絡橋改修 ・犬山駅東西連絡橋改修工事（駅東西エレベーター改修）2,499,970円						
事業の成果・効果	日常的な清掃業務、定期点検による不具合箇所の早期発見や、施設の損傷及び故障に迅速に対処するなどにより、駅利用者等の安全性や利便性に支障を及ぼすことなく、概ね適正に管理することができた。						

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

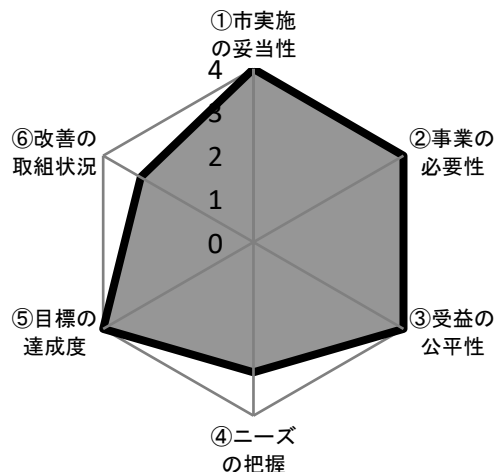
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
駅前広場管理	15,316	3,123	12,193	80%	3	3	3
犬山駅東西連絡橋改修	2,500	0	2,500	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	17,816	3,123	14,693	82%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		28,402	17,816	27,324
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,575	3,123	1,230
	一般財源	26,827	14,693	26,094
一般財源の割合		94%	82%	95%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	駅前広場は市管理地であるため、市が維持管理を行う。
②事業の必要性	4	駅前広場を安全で快適に利用できるよう維持管理をすることは、管理者として必須な事業である。
③受益の公平性	4	通勤、通学や観光客など、多くの人々が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書等により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	日常清掃や施設の損傷及び故障に迅速に対処するなどにより、年間通して駅利用者等の安全性や利便性に支障を及ぼすことなく、概ね適正に管理することができた。
⑥改善の取組状況	3	定期的な点検により劣化・損傷の程度や原因の把握等を行い、点検結果による優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施により、維持管理・更新コストの縮減および予算平準化を図っていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	犬山駅昇降機保守点検業務で不具合が発見された駅西エスカレーター手摺の交換を実施。
令和7年度に見直しを実施している事項	犬山駅東西連絡橋の定期点検業務（5年毎）を実施し、施設健全度の把握するとともに不具合箇所の修繕方法を検討する。
今後見直しを検討する事項	令和7年度予定の定期点検業務の結果に基づき、修繕計画の策定を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
東西連絡橋の施設老朽化	定期的な点検により劣化・損傷の程度や原因の把握等を行い、点検結果による優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施により、維持管理・更新コストの縮減および予算平準化を図っていく。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	2	1	道路維持費	302		

I：事業概要

施策事業名	交通安全総点検対策
事業目的	「通学路交通安全プログラム」に基づき、計画的かつ継続的に通学路安全対策整備に取り組み、児童・生徒たちが安心して通学できる歩行空間の確保を推進する。
事業内容	●事業の全体計画 ・「通学路交通安全プログラム」による対策予定箇所について、年度計画に基づきグリーンベルトやカラー舗装などの安全対策整備を重点的に行う。 ●主な事業内容 ○交通安全総点検対策 通学路安全対策工事（令和6年度） 12,966,800円 - 市道犬山栗栖線（犬山市大字犬山字白山平地内） カラー舗装（緑色） A=58.15㎡、外側線（実線） L=9.0m - 市道羽黒東183号線（犬山市字追分地内） カラー舗装（緑色） A=20.82㎡、外側線（実線） L=50.0m 横断歩道予告 N=2ヶ所、 - 市道富士本線（犬山市字稲干場地内） カラー舗装（緑色） A=387.62㎡ - 市道善師野195号線（犬山市善師野一丁目地内） アスファルト舗装 A=594.00㎡ - P T A 要望対策 12件
事業の成果・効果	「通学路交通安全プログラム」に基づき、令和6年度に予定していたグリーンベルト、カラー塗装、外側線設置などの安全対策整備が完了した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

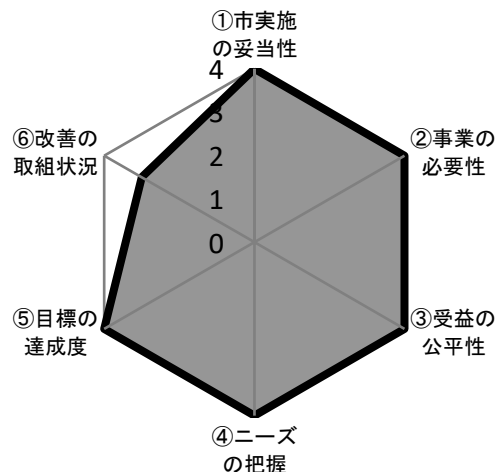
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
交通安全総点検対策	12,967	2,417	10,550	81%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	12,967	2,417	10,550	81%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		10,540	12,967	13,400
財源内訳	国県支出金	2,880	1,007	1,100
	地方債	2,100	0	0
	その他	3,904	1,410	0
	一般財源	1,656	10,550	12,300
一般財源の割合		16%	81%	92%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	交通弱者である未就学児、児童、生徒にとって安心・安全な歩行空間を確保できるよう安全対策を講ずることは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の通学路が対象であり、通学する児童・生徒など市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	4	P T Aからの通学路安全対策要望等により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	「通学路交通安全プログラム」に基づき、令和6年度に予定していたグリーンベルト、カラー塗装、外側線設置などの安全対策整備が完了した。
⑥改善の取組状況	3	P T Aからの通学路安全対策要望の優先順位を考慮しつつ、事業の緊急性・必要性を判断して実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	「通学路交通安全プログラム」の更新より新たに追記された対策予定箇所を対象に、令和8、9年度の整備計画を策定した。
令和7年度に見直しを実施している事項	「通学路交通安全プログラム」による実施事業の効果検証および年度計画の見直しを、学校関係者・警察・道路管理者等で意見交換しながら進める。
今後見直しを検討する事項	今後「通学路交通安全プログラム」に追記されるであろう新規対策予定箇所についても、継続的かつ計画的に整備を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
グリーンベルト、カラー塗装の維持補修	グリーンベルトやカラー塗装の要望により整備を進める一方で、経年劣化により消えかけた塗装も目に付くため、新規とともに再塗装など維持補修についても検討する。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	3	2	河川改良維持費	308		

I：事業概要

施策事業名	河川施設管理
事業目的	準用河川、普通河川、法定外公共用物（水路）、調整池及びその附属施設を健全に維持管理することで、市民生活に支障が無いよう地域排水機能を維持する。
事業内容	●事業の全体計画 ・準用河川、普通河川、法定外公共用物（水路）、調整池及びその附属施設を健全に維持管理する。 ●主な事業内容 ○河川施設管理 ・電気料金（上坂公園調整池外14）1,210,048円 ・高根洞工業団地水処理施設管理業務委託（点検・分析等、汚泥処理）15,699,200円 ・ポンプ保守点検委託（上坂公園調整池外10 点検2回/年）1,947,000円 ・河川排水路維持管理委託（地元要望 草刈・浚渫等）29件 9,451,310円 ・河川排水路浚渫委託（樋戸川）7,505,300円 ・堰等保守点検委託（樋管、樋門、杵・ゲート、可動堰）3件 1,016,400円 ・河川排水路維持工事（地元要望等）24件 9,759,750円 ・高根洞工業団地水処理施設維持工事2,101,000円 ・雨水貯留浸透施設設置費補助金127,700円 雨水タンク、雨水浸透柵、既設浄化槽転用施設
事業の成果・効果	河川、排水路や調整池等について、施設の点検及び補修、除草、浚渫などを実施し、機能阻害による被害をおこさないよう管理を行った。

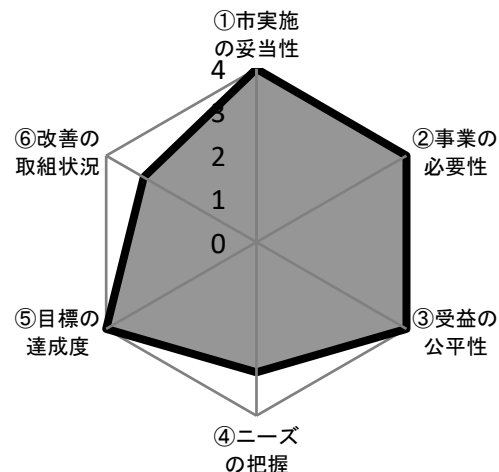
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
河川施設管理	49,029	4,660	44,369	90%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	49,029	4,660	44,369	90%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		46,822	49,029	56,040
財源内訳	国県支出金	0	0	220
	地方債	0	0	0
	その他	4,587	4,660	4,006
	一般財源	42,235	44,369	51,814
一般財源の割合		90%	90%	92%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、排水路等の管理は市が行う。
②事業の必要性	4	地域排水機能を維持するためには、排水路等の適正な維持管理を継続していく必要があり、事業継続は必須である。
③受益の公平性	4	市内全域の排水路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	水路関係の令和6年度要望に関する実施率は約65%で、年度目標値40%を達成した。
⑥改善の取組状況	3	地元要望箇所について現地調査を行い、事業効果や危険度が高い箇所など優先度を判断し、維持補修等の対応を適宜実施する。予算規模が大きくなる場合は、修繕計画をたて予算の平準化を図りながら進める。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	地元要望箇所の現地調査を行い、緊急度や重要度などから優先順位を判断し、維持・補修等を実施した。
令和7年度に見直しを実施している事項	地元要望箇所については現地調査を行い、緊急度や重要度などから優先順位を判断し、維持・補修等事を適宜実施する。予算規模が大きくなる場合は、修繕計画をたて予算の平準化を図りながら進める。
今後見直しを検討する事項	施設点検により劣化や損傷状況を把握し、適切な時期に施設の改築・更新を行うことで長期的な維持管理コスト削減を図る。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地元ボランティア活動者の高齢化等による、河川・排水路の日常管理（清掃・除草等）の低下	除草委託や張コンクリート・防草シート等による雑草抑制対策など、現場状況に合った手法をコスト面も踏まえて検討する。

令和6年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書 (P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	土木管理課
7	4	6	公園管理費	320		

I：事業概要

施策事業名	都市公園維持管理
事業目的	都市公園等を安心、安全に使用できるよう適正に維持管理することで、子どもたちの遊び場、健康維持増進、身近に自然とふれあう場や潤いのある空間とし、市民に提供する。
事業内容	●事業の全体計画 ・都市公園等の施設管理者として、施設を常時良好な状態に保つよう清掃、除草、樹木剪定、遊具等施設の点検および維持修繕などを行ない、利用者の安心・安全に支障を及ぼさないよう管理する。 ●主な事業内容 ○都市公園維持管理 ・都市公園等維持管理業務委託（清掃、除草、ゴミ等の処理など日常的な維持管理） 町内会等（76団体）との都市公園等（133施設）管理業務委託 17,678,956円 都市公園等維持管理業務委託（内田防災公園外12） 10,483,000円 ・維持管理業務委託（木曽川犬山緑地、犬山ひばりヶ丘公園、山の田公園、 犬山丸の内緑地、石作公園、上坂公園） 20,550,200円 ・遊具保守点検業務委託（年6回） 2,409,000円 ・樹木剪定業務委託 12件 6,451,500円 ・除草業務委託 7件 6,560,400円 ・公園便所浄化槽清掃保守点検業務委託 300,300円 ・公園設備保守点検業務委託（電気設備及びポンプ、機械設備） 550,000円 ・倒木処理・はみ出し枝処理業務委託 5件 1,017,500円 ・砂場細菌検査業務委託 1,059,080円 ・花と緑のあるまちづくり事業委託（公園花壇等への花の苗植付・管理等） 3,047,000円 ・都市公園等維持管理工事（地元要望等） 53件 20,865,697円
事業の成果・効果	公園施設の点検及び補修、清掃、除草、樹木剪定などの業務実施により、子どもたちの遊び場、健康維持増進、身近に自然とふれあう場や潤いのある空間とし、市民に提供できるよう管理を行った。

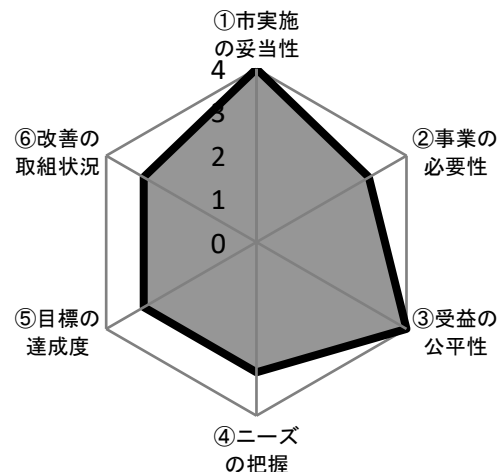
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
都市公園維持管理	97,301	2,314	94,987	98%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	97,301	2,314	94,987	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R5決算	R6決算	R7予算
		88,195	97,301	102,336
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3,156	2,314	1,884
	一般財源	85,039	94,987	100,452
一般財源の割合		96%	98%	98%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	行政財産であり、市が主体で管理するもの。
②事業の必要性	3	市民の憩いや遊びの場として日常に直結しているものであり、事故防止のために最低限の事業継続は必要である。
③受益の公平性	4	不特定多数の人が利用し恩恵を受ける事業と考えられる。
④ニーズの把握	3	地元からの要望書により、利用者のニーズの把握に努める。 ひばりヶ丘公園は、近隣市町からの来訪者も多いため、幅広くニーズを把握し、応えていく必要がある。
⑤目標の達成度	3	令和6年度公園要望に対する実施率は80.7%で、年度目標値80%を達成した。 夏季は雑草の成長が早く、除草要望が多くなるが、施工体制の確保が困難であり、要望時期に沿えないことがある。
⑥改善の取組状況	3	近年の厳しい財政状況の中、園内清掃や除草等については、現状の内容・回数の確保に努めている。また、遊具等については、年6回の保守点検結果や市民からの要望等を受け補修・改修を行い、事故等の発生防止に努めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和6年度に見直しを実施した事項	町内会等へ委託している日常的な公園管理業務（除草・清掃など）について、令和6年度の委託料見直しを踏まえたうえ、各町内会等へ業務委託の継続について意向確認を行った。
令和7年度に見直しを実施している事項	市民アンケート調査から、犬山ひばりヶ丘公園の利用者は小さな子ども連れが多いことから、キッズスペースを新設する。また、小規模公園（街区公園、ちびっこ広場等）についてはモデルケースとして、子どもの遊び場、休憩場所、広場の3パターンで再整備を実施する。
今後見直しを検討する事項	モデルケース3公園再整備後の経過観察・効果検証により、小規模公園再整備計画（再編）内容を決定し、公園再整備に取り組む。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和6年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
公園再整備による市民満足度の向上	地元と意見交換を行い、地元要望に即した再整備を行うことで、地域の実情に合った利用し易い公園とする。